

(金のエンジェル賞 幼児・小学生低学年の部)

妹なんか、大つきらい

小二・中村 望那

「何、かってにたおれてんの？」

ドシンッと妹がしりもちついた。わたしの、言うことを何もきかない妹をわたしがつきとぼした。ママと、目があったから、思わず言った。うそをついた。この日はあさから、けんかしていた。

「タッタラタッタタンターン。ただいまより、二十四じかん一人っ子レースをはじめます。さんかしゃは、姉ありさと、妹さらな。今から、あす夕方4じまで、ぜったいに、話しては、いけません。では、ヨーイスタート！」

ママは目が赤い、ま女になり、レースの、しんぱんになった。ぶきみに、ニヤニヤわらって、ウインクした。

「さらななんて、生まれてこなければよかった。だから一人っ子うれしい。いつもママ一人じめできる」

妹はおこったままだ。

いえにかえり、夕はんのじゅんび。いつもなら、二人でおてつだい。今日は一人ずつ。一人がおてつだいするときは、リビングで一人あそび。

「つまんないから、べんきょうしよつと」  
いつもとちがうことをした。

夕ごはん。だれも、しゃべらない。ママま女は、いつもよりよくたべる。

夕しよくご。リビングで一人あそび。はしとはしで、せ中をむけてあそんだ。ときどき目があつた。でもすぐに、フンツとおたがいくびをふつた。

「やっぱりきらい。ぜったい話さない」

おふろのじかん。いつも、二人どうじにママと入るのに今日は、一人ずつ。一人リビングでまってる、こわくなった。おばけがいる気がした。へやも広くかんじた。

ねるじかん。ママと妹としんしつへいった。いつもはトランプやしりとり、ものまねをして、大わらいのじかん。するとママま女が、言った。

「みんなハッピー。一どもけんかしてないね。ママも、おこらなくて、いいね。かたづけもけんかに、ならないね。自分のだしたもの、わかるしね。みんなハッピーなよるだー」

わたしは、まゆげをよせて、口びるを右左にうごかし、犬のようになつた。目からなみだがこぼれそうだった。妹は、あせをかき、ママま女をにらんでいた。

よる、目がさめた。ねている妹のせ中を、やわらかくなでた。そして、きよ大山ねこにおいかけられ、妹とにげるゆめを見た。

朝。わたしは、えがおをつくって、

「もう、なかなかおりできるもん」

と、ママま女にいった。妹もまねをした。

「ブブブー。二十四じかんたっていません。レースつづけます」  
ママま女は、とびつきりのえがおで言った。

きょうも、リビングのはしとはしで一人あそび。ときどき、目が合った。ママま女にみつからないように、妹といっしゅんキラツとわらつた。

---

ひるごはん。ママま女にみつからないように、妹とキラッキラツとわらった。

それから、じかんがきになった。

「今、何じ？」

そして、とうとう夕方4じ。

「おつかれさまでした。おわりー」

ママま女が、いつものママにもどった。

「ごめんね。わたしの妹に生まれてきてくれて、ありがとう。いっしょに、あそぼ」

「うん、いいよ。大すき」

妹は、わたしにだきついてきた。大きくなったねと、心の中でおもった。

はるがきたら、わたしと同じ小学生。ずっと前から、わくわくしている。

---



画：橘 春香